琉球大学学術リポジトリ

ギンネムの飼料的利用

メタデータ	言語:
	出版者: 南方資源利用技術研究会
	公開日: 2014-10-26
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 本郷, 富士弥
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016986

○　特別講演会資料

ギンネムの飼料的利用

琉球大学農学部　　本郷富士弥

ギンネム（Leucaena leucocephala de Wit）は、マメ科の多年生小高木であり熱帯から亜熱帯にかけて広く分布している。ギンネムの茎葉部はタン白質含量が高く、またビタミンKやカロチンおよびカルシウム含量も多く家畜に対する嗜好性も高いといわれていることから、飼料原料として高い価値を有していることが、これまでに多くの研究者によって指摘されており、世界各国で飼料化を中心とした有効利用が試みられつつある。しかし、家畜がこれを継続的に摂食すると含有する毒性アミノ酸であるミモシンによって発育阻害、繁殖障害および脱毛などの病的症状の発現が知られており、全ての面での有効利用が著しく制限されている現状である。よって、本報告は、ギンネムを飼料資源として家畜に効率的に利用するための基礎的技法を確立するために、ギンネム中のミモシンを減少させるための効率的な方法について検索し、本法によって得られたギンネム飼料の家畜に対する飼料価値、安全性および産肉性などについて調査し、ギンネムの飼料としての利用性向上の効果について若干の検討を行った。

得られた結果の要点は次のとおりである。ギンネム中に含有するミモシンは、ルーメン内微生物群、ギンネム茎葉部自体に存在する酵素作用、各種塩溶液に浸漬することおよびサイレージ調製などによって減少することが認められた。これらの減少効果のうちで、ギンネムの飼料としての利用性向上のための実用上の効果を有すると考えられたサイレージ調製によってミモシンを減少させたギンネム調製飼料の各種動物に対する飼料価値と安全性を検討した結果、本飼料は、従来報告されている配合量を上回って利用できることが明らかとなった。